

会議名	令和6年度（2024年度） 第4回 宝塚市子ども審議会		
日時	令和6年（2024年） 11月13日（水） 午後 3時00分～午後 5時00分	場所	中央公民館 203・204学習室
出席者	委員	伊藤篤、中谷奈津子、治部陽介、大西登司恵、平原雅明、中村末葉、西澤千夏、椎山美恵子、藤由貴、林田桜子、山本發生、藤井真人、秦忍、榊井ひとみ、池田尚子、ベルテッリかおる、藤田かおり（敬称略） 計17名（欠席4名）	
	事務局	子ども未来部長、総括担当及び子ども家庭担当次長、子ども政策課長、同係長、同係員	
	拡大事務局	たからっ子総合相談センター所長、子育て応援課長、子ども家庭支援センター所長、子ども発達支援センター所長、保育企画課長、同副課長、保育事業課長、アフタースクール課長、子ども総合相談課長、健康推進課長、障碍福祉課長 計11名（欠席7名）	
会議の公開・非公開		公開	傍聴者
			なし
内 容（概要）			
1 開会 会議の成立及び公開について 事務局： 委員21名のうち17名出席 宝塚市子ども審議会条例第6条第2項により、委員の過半数以上の出席があったため会議は成立している。 当審議会については公開を原則としている。本日は、傍聴者はなし。 2 議題 （1）宝塚市こども計画たからっ子「育み」プラン（案）のパブリック・コメントの実施について ○事務局から、資料1、2に基づき説明。 会 長： P.45とP.46の利用者支援事業の種類のうち、4つ目の型はP.45の表では「妊産婦」に、実施施設のところでは「妊婦等」となっている。また、P.46の表中も「妊婦等」となっているが、これであっているのか。 事務局： 国から出ている手引きを確認すると、「妊婦等」となっている。修正させていただく。 委 員： 3点確認がある。1点目は、P.46の量の見込みと確保方策について、量の見込みが8か所となっているにも関わらず、確保方策は7か所となっており1か所少ない。それで正しいか。 2点目は、P.46の地域子育て相談機関について、利用者支援事業とどのように関連するのか分かりにくい。異なるものか、同じものか。同じものであるとしたら、どのように差異があるか教えていただきたい。 3点目は、P.53（6-3）児童育成支援拠点事業について、確保方策が3年間にわたって0人で、令和10年度から20人に設定することは前回会議で理解した。しかし、これを初めて見る人は令和9年度までなぜ0なのか疑問を持つのではないかと。3年間0人である説明を付けるとよいのではないかと。 事務局： 1点目については、量の見込みは最終的に8カ所を実施していきたいと考えている。確保方策は、5年間の計画であるため、令和11年度までしか記載しておらず、7か所としているが、令和12年度に8か所にしたいと考えている。 事務局： 2点目については、地域の身近な相談機関として、利用者支援事業基本型と併せて実施する。 会 長： 補足すると、新たにこども家庭センターが再編されたとき、地域の人がこども家庭センターだけではなく身近なところでも相談できるようにという国の考えがあり、宝塚市としては、地域子育て支援拠点があるところに、身近な相談機関＝地域子育て相談機関を整備していきたいという考えなのかなと思う。国の利用者支援事業基本型の財政支援			

を受けることで整備がしやすくなる。

委 員： いきなりこども家庭センターへ相談に行かないからアウトリーチ、つなぐところが必要で、地域子育て相談機関があるとよいということは理解できるが、利用者支援事業基本型との関係性を含め、そのあたりがわかりにくい。

事務局： 表記について、検討させていただく。

3点目の児童育成支援拠点事業についても、表記を検討させていただく。

会 長： P.60産後ケア事業について、実施施設が「市が委託する医療機関等」となっているが、宝塚市には助産院はあるか。

事務局： 分娩は取り扱っていないが産後ケア事業を実施している助産所や助産師の任意団体で拠点がある宝塚市助産師会がある。「市が委託する医療機関等」の中に、これら助産所も含まれている。

委 員： P.50放課後児童健全育成事業について、表を見ると待機児童が徐々に解消されていくように見え、現在ほとんどの希望者が入ることができているという数字に見える。しかし、周りでは入ることができない人が多く、入ること自体がハードルになっている印象がある。入所条件が、「子どもとの時間を大切にしたいが、働きたい」という保護者のニーズに合っていないのではないか。長期休暇中の保護者のニーズに対応できるのが児童館と思うが、開所時間が午前10時からとなっており、9時からに早くなれば救われる人も増えるのではないか。

事務局： 児童館は18歳未満の全ての子どもの利用時間に対応するというようになっており、現状では午前10時から午後5時までの時間で運用しているという状況である。

会 長： 学童保育の夏休み利用は、ニーズが高くなっている。神戸市では新しいプランを作っており、夏休み利用について、積極的に考えていこうとしている。ニーズがあることは事実なので、宝塚市でも考えていただきたい。

事務局： 夏休みの受け入れについては、今年度、新たな試みとして、夏休み限定という形で市内6カ所、民間委託を含めると7カ所で実施した。臨時的な措置であったが、制度化できれば全体の待機児童対策にも寄与すると考えている。

委 員： そうした取組の情報はどこで入手できるか。

事務局： 待機になった方を対象にさせてもらっており、通年での利用希望が叶わなかった方に対して案内を送付している。

委 員： P.43について、その他で「新制度に移行しない幼稚園」と「幼稚園及び預かり保育」に分かれて書かれているが、上の「特定教育・保育施設」における幼稚園と、「その他」における幼稚園の違いがわからない。

事務局： ご指摘の部分について、「特定教育・保育施設」の幼稚園は、市の施設型給付を受けている施設で、公立幼稚園がこれにあたる。「新制度に移行しない幼稚園」は、私立幼稚園で、施設型給付に移行していない施設になる。元々「新制度に移行しない幼稚園」の数字を「預かり保育」を含めた数字で作ったが、量の見込みが2号認定の幼稚園で463人となっており、この463人は「幼稚園」＋「預かり保育」を使うのではないかと県から指摘を受けたことで、「新制度に移行しない幼稚園」の部分をもつに分ける修正を行った。

委 員： 「幼稚園及び預かり保育」は公立幼稚園と「新制度に移行しない幼稚園」以外の幼稚園の利用及び預かり保育希望者の見込みということか。

事務局： そのとおりである。

委 員： 預かり保育自体が幼稚園で実施されることであると思うので、「幼稚園及び預かり保育」という表記自体がすっきりしない。国の指示ということであれば仕方がないが、表記について検討できないか。

事務局： 国の手引きで示されている表記のため、ご理解をお願いします。

委 員： P.42「参考 宝塚市の0～17歳の推計人口」の文中において、「極めて少数である地区に関して秘匿したもの」とあるが、どのような意味か。

事務局： 細かい地区に分けて算出しているが、個人が特定される可能性がある地区については、ゼロで計算している。

委 員： 一般の方が読んでわかるような書き方にしておく必要があるので、表記について、検

討していただきたい。

○事務局から、資料3に基づき説明。

委員： 1点目、現計画のパブリック・コメントでは何件くらい意見があったのか知りたい。
2点目、公表方法について、「市のホームページ等で公表しています」とあるが、近年SNSが発達しておりホームページ以外の発信も考えているか。

3点目、提出方法について、最近では、フォームに直接入力して送信ボタンを押せば、相手側に届く仕組みもあるが、そのようなことは可能か。

事務局： 1点目について、この場では確認できないため後日回答する。

⇒（後日確認追記）現計画のパブリック・コメントでは、34件の意見があった。

2点目について、ご指摘のとおり広く発信し意見を募ることは重要であり、検討させていただく。

3点目についても検討させていただく。

委員： パブリック・コメントで、せっかく提言していただいているのに、「原案のとおりといたします」だけで、非常に素っ気ない返答が多いこともある。原案のとおりにする場合であっても、なぜ原案の通りにするのかということまで丁寧に回答いただきたい。

委員： 資料3-2の5（1）にはホームページで公開と書かれているが、ホームページは自分から情報を掴みに行かなければならない。公式LINEなど、SNSを活用し、プッシュ型の情報発信も必要でないか。

もう1点、（2）にある子ども政策課、サービスセンター・サービスステーションは用事がないと行かない。日常的に行く場所でも配布を検討いただきたい。

事務局： 検討する。

委員： 7の意見の提出方法について、よくホームページ上で「ここに入ってください」と指示があり、用紙をダウンロードすることがある。今回のパブリック・コメントも、サイトに一記事として載せられると想像をしているが、提出方法のところで、最初のページから何段階もページを移動するように誘導されると、せっかく意見を提出しようと思ったのにやめてしまう方もいると思う。意見を出したいと思われた方がすぐに提出できるように、アクセスの動線はすっきり整えていただけると、回答率が上がると思う。

会長： 私も同意見である。回答フォームによる回答ができないと提出に至りにくいと思う。

委員： Word形式でダウンロードできるか、サイト上の回答フォームから回答できるようにすると回答率が上がると思う。一時保存して、しばらくしてから再度入力することができるとなおよい。

委員： 子育て層が多く集まるところでの情報発信が必要である。

3 その他

○事務局より、次回審議会と次期審議会委員に関して説明。

閉会